

10月の外来医師診療予定

		月	火	水	木	金
午前	内科	(武輪)	細川	星川	細川	浜田
		(下嶋)				
		菊田	菊田	菊田	菊田	菊田
午後	内科	浜田	細川	星川	細川	松浦
	リハビリ	菊田	菊田	菊田	菊田	菊田
診療科		医師名		予 定		
リハビリ		菊田		11日(水)・12日(木)・13日(金) 休み		
内科		武輪		16日(月)・30日(月) 午前診療		
内科		下嶋		2日(月)・23日(月) 午前診療		

100歳のお祝いをしました😊
患者様の表彰に、谷口町長が来院されました！

新十津川神社例大祭



あとがき

9/4に新十津川神社例大祭が行われ、久々に患者さまが参加することが出来ました。
生で獅子神楽の演武を見ることができ、皆さま大変喜んでいました。来年も見れるといいですね♪
そして江目さん、100歳おめでとうございます！これからもお元気でいてください😊

小笠原



広報誌

つつじ



令和 5年 10月1日発行

第114号



- ・ 発熱など風邪症状の方の受診は、事前にお電話でご相談をお願いします。
- ・ 入院患者様との面会は完全予約制となっております。入院されている病棟へお問い合わせください。
- ・ ご来院の方全てにマスク(不織布)の着用をお願いしております。



坂本龍馬と新十津川剣道

理事 丹 芳男

(ペンネーム立歩人・プレス空知にコラム執筆中)

日本の英雄と言えば？…そう坂本龍馬！何たって人気投票をすれば常にトップ争い、例えば同じ明治維新を推進した西郷隆盛、その書と比して龍馬の物は10倍価格とか…という事で本日のタイトルに。

意味不明？…いえいえ、ですからそんな龍馬が深く信頼し愛したのが十津川郷士、そしてその精神を受け継ぐのが新十津川人形になって見えるのが剣道なんです。

私はこれまでプレス空知等にこれら歴史やエピソードを書き、その具現する新しいヒーローを心待ちにしていたのですが、ついに現れました。新十津川中学女子団体が全国ベスト8、更に小林愛依さんにいたっては全道大会個人戦3連覇！つまりこれ、1年生の時から上級生相手に勝ち続けてきたわけで…何とその得意技「面（めん）」いや～格好良～い！

まだ不明？…そうか、ちょっと私だけ盛り上がり過ぎかもですね。では再度歴史的背景を。

郷士とは「平時は農業者等でいざとなると武士となり戦う者」の事、十津川は全村民が郷士で、京都に事変あるとかけつけ終わると元の仕事に。実直、一步一步前進前進「千三百年の昔から恩賞や自己の栄達のために戦った事はない」というのが自負。

幕末期、そんな彼らと土佐藩士の信頼は厚く、現に龍馬の身辺護衛は十津川郷士20歳居合の名手・中井庄五郎。彼はすでに英雄であった龍馬から「上も下もない、志を同じくする者同士対等」と遇され「この人のためなら命も」と心酔。実際「龍馬の仇を」と後の外務大臣・陸奥宗光と共に突撃するも新選組に横から切られ、龍馬の墓近くで眠っています。龍馬も彼の心意気と誠実さに感銘、手紙を添え刀を送った位です。

十津川郷は領主がいらない、地域ごとに代表者が選ばれ、その彼らによる合議制、つまり現代と同じ議会制民主主義。彼らは維新の功労者にもかかわらず、いつもの様に元の生活、そして起きたのが大災害でした。

彼らは龍馬の夢「武士による北海道開拓、ロシアからの守り」を叶えるべく、着の身着のままボロボロの中、刀だけは手に、気概の十津川郷士の旗を先頭に掲げ、村の三分の一にあたる約二千五百名もが大挙北海道の荒野へと向かったのです。

そうです龍馬に愛された心意気、今もここに。来たれや来たれ続けや続け、未来を担う豆剣士！



看護部紹介

看護部長あいさつ

当院は地域の急性期医療を終えた方や、施設入所が困難になった方を受け入れている200床の医療療養型病院です。

病院理念の「一人一人を大切にする医療」を実現するために、患者さま、ご家族、そして勤務する職員ひとりひとりを大切な存在として尊重し、ここで良かったと感じて頂けるように、看護部として日々関わっているところです。

「患者さまの意向に沿った看護・介護を提供する」を看護部目標として、入院時に患者さまやご家族から意向を確認し、それを基に多職種（地域連携室・看護師・介護士・薬剤科・リハビリ・栄養科）で入院時カンファレンスを実施して看護計画へ反映させています。

私自身、昨年4月に入職したのですが、褥瘡回診で100歳を超えた患者さまの褥瘡(床ずれ)が完治した際、回診メンバーやそばにいたスタッフが「きれいになったね！」「よかったね！」と言い、拍手が起きたのを見て、再就職先にここを選んで良かったと、温かい気持ちになったのが印象的でした。

本年7月から、曳地加奈子副看護部長、小笠原恵梨子副看護部長と共に3名の新体制となりました。長く歩まれてきた患者さまの人生に寄り添い、ご縁があって関わらせていただくこれからの人生も、その方らしく過ごせるような支援をしたいと思っています。それと同時に看護職員の働きやすい環境づくりと研修や勉強会を通した学びの提供、意見を発信しディスカッションできる環境を整えたいと考えています。

看護職員のモチベーションや知識、感性を高めることで、看護・介護の質を向上させ、それらが患者さまへ還元される好循環を目指していきたいと思っています。

看護部長 赤間 博美

看護部では委員会活動を積極的に行っております。

医療安全委員会：医療事故を未然に防ぐための活動や再発防止に努めるよう活動を行っております。

感染対策委員会：さまざまな感染症に関する対策を日々検討し、確実な実施に向けて勉強会や話し合いを行っております。

褥瘡委員会：床ずれゼロを目指し、防止対策や床ずれができてしまった方が一日でも早く治るよう治療や看護について対策を検討しています。

身体拘束委員会：身体拘束ゼロを目指す、また患者さまに寄り添ったケアができるよう日頃の対応について振り返ったり、学習したりしています。

すべての委員会での活動がより良いケアに繋がるよう日々活動しております。